

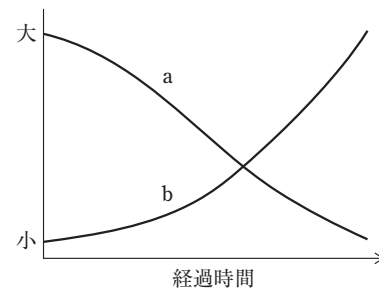
問 1 正解 完璧 直前チェック

情報システムの企画、開発、運用、保守作業に関わる国際標準の一つであるSPA (Software Process Assessment) の説明として、適切なものはどれか。

- ア ソフトウェアプロセスがどの程度の能力水準にあり、継続的に改善されているかを判定することを目的としている。
- イ ソフトウェアライフサイクルを合意プロセス、テクニカルプロセス、運用・サービスプロセスなどのプロセス群に分け、作業内容を定めている。
- ウ 品質保証に関する要求項目を体系的に規定した国際規格の一部である。
- エ プロジェクトマネジメントの知識体系と応用のためのガイドである。

問 2 正解 完璧 直前チェック

図は一般的なプロジェクトにおける開始から終結までの時間の経過に伴って変動する要素について表している。a、bに対応する要素の適切な組はどれか。



	a	b
ア	ステークホルダの影響力	要件変更への対応コスト
イ	プロジェクト要員数	リスク
ウ	要件変更への対応コスト	プロジェクト要員数
エ	リスク	ステークホルダの影響力

問 1 ア

解説 SPAは国際標準の一つで、ソフトウェアプロセスがどの程度標準化・定量化され、継続的に改善されているかを判定することを目的とした、モデルと実施のためのガイドである。CMM (成熟度モデル) と同じプロセスであるが、レベル0を追加した6レベルを用いる点異なる。

レベル0：場当たりの不完全な状態である。

レベル1：プロセスが確立されていない。

レベル2：特定のプロジェクトリーダーや技術者に依存している。

レベル3：首尾一貫したプロセスを標準としてもっている。

レベル4：標準化されたプロセスを定量的に測定し、洗練化していく。

レベル5：技術・要件環境の違いによって、標準プロセスを最適化して用いられる。

イ：SLCP- JCF2007の説明である。

ウ：ISO 9000シリーズの説明である。

エ：PMBOK (Project Management Body Of Knowledge) の説明である。

問 2 ア

解説 ステークホルダ：PMBOK (米国のプロジェクトマネジメント協会がまとめたプロジェクトマネジメント知識体系) では、「プロジェクトに積極的に関与しているか、またはプロジェクトの実行あるいは完了によって自らの利益がプラスまたはマイナスの影響を受ける、顧客、スポンサー、母体組織、一般大衆のような個人や組織」と定義している。

プロジェクトの開始から終結に向かって時間の経過により変動する要素について、ステークホルダの影響力やリスクは、開始時が最大で徐々に低下していく。プロジェクトの要員数はプロジェクト中盤で並行作業しているときが最も多く、序盤や終盤は少なくなっている。一方で、経過時間が経つにつれて要件変更への対応コストは後戻り作業が発生するために増加する。

問 3 正解 完璧 直前チェック

PMBOKにおいて、プロジェクト憲章は、どの知識エリアのどのプロセス群で作成するか。

- ア プロジェクトコミュニケーションマネジメントの実行プロセス群
- イ プロジェクトスコープマネジメントの計画プロセス群
- ウ プロジェクト統合マネジメントの計画プロセス群
- エ プロジェクト統合マネジメントの立上げプロセス群

問 4 正解 完璧 直前チェック

PMBOKによれば、組織のプロセス資産を“プロセスと手順”と“企業の知識ベース”に分類したとき、“企業の知識ベース”に含まれるものはどれか。

- ア WBSのテンプレートやリスクの評価を行う際のテンプレート
- イ 各プロジェクトで作成されたパフォーマンス測定の基本ラインや品質の基本ラインなどのプロジェクトファイル
- ウ 使用するコミュニケーション媒体やセキュリティに対する要求事項
- エ 標準化された作業指示書やパフォーマンス測定基準

問 5 正解 完璧 直前チェック

PMBOKでの定義におけるプロジェクトとステークホルダの関係のうち、適切なものはどれか。

- ア サプライヤは、プロジェクトが創造するプロダクトやサービスを使用する。
- イ スポンサーは、契約に基づいてプロジェクトに必要な構成アイテムやサービスを提供する。
- ウ 納入者は、プロジェクトに対して資金や現物などの財政的資源を提供する。
- エ プログラムマネージャは、関連するプロジェクトの調和がとれるように、個々のプロジェクトの支援や指導をする。

問3 エ

解説 プロジェクトマネジメントにより特定の成果を生み出す一連の活動のことを、PMBOKではプロセスと呼ぶ。PMBOKでは44のプロセスを定義し、これらを五つのプロセス群に分類している。その五つとは、立上げプロセス群、計画プロセス群、実行プロセス群、監視コントロール・プロセス群、集結プロセス群である。

知識エリアを順に列挙すると、①プロジェクト統合マネジメント、②プロジェクト・スコープ・マネジメント、③プロジェクト・タイム・マネジメント、④プロジェクト・コスト・マネジメント、⑤プロジェクト品質マネジメント、⑥プロジェクト人的資源マネジメント、⑦プロジェクト・コミュニケーション・マネジメント、⑧プロジェクト・リスク・マネジメント、⑨プロジェクト調達マネジメントである。

プロジェクト憲章の作成は、プロジェクトを公式に認可するプロセスであり、プロジェクト統合マネジメントの立上げプロセス群で行う。

問4 イ

解説 PMBOKでは、組織のプロセス資産は「プロジェクトに関わりをもつ組織のプロセス関連の資産」と定義されている。

PMBOK プロセスと手順：作業指示書、パフォーマンス測定基準、受入基準、要求事項、テンプレート、変更管理手順、承認・許可証の発行手続き

PMBOK 企業の知識ベース：プロジェクト・ファイル、過去の情報や教訓、課題と欠陥のマネジメントデータベース、財務データベース

ア、ウ、エ：プロセスと手順

イ：企業の知識ベース

問5 エ

解説 PMBOK (Project Management Body of Knowledge)：米国のプロジェクトマネジメント協会がまとめたプロジェクトマネジメント知識体系。

ア：ステークホルダとの関係である。

イ：サプライヤとの関係である。

ウ：スポンサとの関係である。

エ：プロジェクトマネージャとの関係である。

問 6 正解 完璧 直前チェック

PMBOKのプロジェクトスコープマネジメントにおいて、WBSの作成に用いるローリングウェーブ計画法の説明はどれか。

- ア WBSを補完するため、WBS要素ごとに詳細な作業の内容などを記述する。
- イ 過去に実施したプロジェクトのWBSをテンプレートとして、新たなWBSを作成する。
- ウ 将来実施されるサブプロジェクトについては、上位レベルのWBSにとどめておき、詳細が明確になってから、要素分解して詳細なWBSを作成する。
- エ プロジェクトの作業をより詳細化するために、WBSの最下位レベルの作業内容や要素成果物を定義する。

問 7 正解 完璧 直前チェック

プロジェクトマネジメントで使用する責任分担表(RAM)の一つである、RACIチャートで示す4種類の役割及び責任の組合せのうち、適切なものはどれか。

- ア 実行責任, 情報提供, 説明責任, 相談対応
- イ 実行責任, 情報提供, 説明責任, リスク管理
- ウ 実行責任, 情報提供, 相談対応, リスク管理
- エ 実行責任, 説明責任, 相談対応, リスク管理

問6 ウ

解説 ローリングウェーブ計画法：段階的詳細化のこと。直近の計画は詳細に、後工程の計画は大まかに立てておき、プロジェクトが進行してから計画を詳細化していく手法。

問7 ア

解説
責任分担表(RAM)：ある目的を達成するために、複数の人間または組織が実施する仕事において、組織や要員の役割や責任の分担・割り当てを示す表のこと。役割分担表ともいう。RAMとはResponsibility Assignment Matrixの略である。

RACIチャート：タスクを4種類の参加者の責任型に分割して示した図。プロジェクトや工程ごとに各参加者には異なる役割が割り当てられる。この責任型の名称の頭字語がRACIである。よって、アが正解。

実行責任 (Responsible)	タスク達成のために働く責任者。複数のリソースについて責任をもつことがある。
説明責任 (Accountable)	タスクの正しい完了について外部からの問合せに対して責任をもって対応する。各タスクの窓口は1つでなければならない。
相談対応 (Consulted)	意見を求められる者。双方向の対話。
情報提供 (Informed)	進捗を常に把握している者。一方向の通信。

問 8

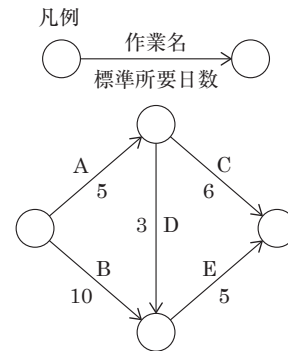
正解

完璧

直前
チェック

表は、あるプロジェクトの作業リストであり、図は、各作業の関係を表したアローダイアグラムである。このプロジェクトの所要期間を3日間短縮するためには、追加費用は最低何万円必要か。

作業	標準所要 日数〔日〕	短縮可能な 日数〔日〕	1日短縮するのに必要 な追加費用〔万円〕
A	5	2	2
B	10	4	3
C	6	2	4
D	3	1	5
E	5	2	6



ア 9 イ 11 ウ 12 エ 14

問 9

正解

完璧

直前
チェック

プロジェクトのスケジュールを管理するときに使用する“クリティカルチェーン法”の特徴はどれか。

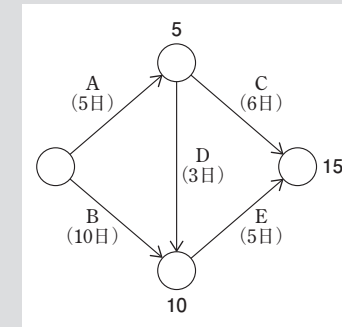
- ア クリティカルパス上の作業に生産性を向上させるための開発ツールを導入する。
- イ クリティカルパス上の作業に要員を追加投入する。
- ウ クリティカルパス上の先行作業が終了する前に後続作業に着手し、並行して実施する。
- エ クリティカルパスを守るために、フィーディングバッファと所要期間バッファを設ける。

問 8

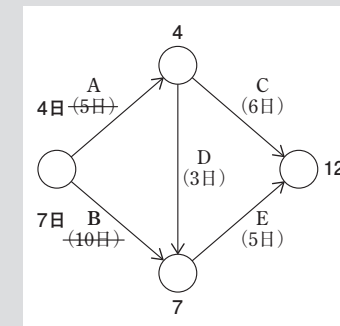
イ

解説 アローダイアグラム：ある作業の内容と日程の流れを、矢印で順に追って表した図式のことである。

当初のプロジェクトの所要日数及びクリティカルパスは次図のようになる。



修正後の所要日数及びクリティカルパスは次図のようになる。



Aを1日、Bを3日間短縮するので $3 \times 3 + 2 \times 1 = 11$ 〔万円〕必要である。

問 9

エ

解説 クリティカルチェーン法は、資源(リソース)に限りがあることを考慮してプロジェクトスケジュールを管理する手法である。作業の依存関係と、資源の依存関係の両方を見るのが特徴である。

クリティカルパス法との違いは、クリティカルパス法は遅延発生の可能性のあるスケジュールパスを重点的に管理するが、クリティカルチェーン法ではクリティカルパスに加えて資源(リソース)を勘案してスケジュールを管理することである。

ア：ツールを導入することではない。

イ、ウ：プロジェクト進行時の対応方法の一つである。

問 10 正解 完璧 直前チェック

プロジェクトマネジメントの実績報告のプロセスにおいて、スコープ、コスト、スケジュールに関して、ベースラインと実績のかい離を明確にするために使用される技法はどれか。

- ア what-if シナリオ分析 イ 傾向分析
ウ 差異分析 エ モンテカルロ分析

問 11 正解 完璧 直前チェック

あるソフトウェア会社の社員は週40時間働く。この会社が、開発工数440人時のプログラム開発を引き受けた。開発コストを次の条件で見積もるとき、10人のチームで開発する場合のコストは、1人で開発する場合のコストの約何倍になるか。

〔条件〕

- (1) 10人のチームでは、コミュニケーションをとるための工数が余分に発生する。
(2) コミュニケーションはチームのメンバが総当たりでとり、その工数は2人1組の組合せごとに週当たり4人時(1人当たり2時間)である。
(3) 社員の週当たりコストは社員間で差がない。
(4) (1)～(3)以外の条件は無視できる。

- ア 1.2 イ 1.5 ウ 1.8 エ 2.1

問 12 正解 完璧 直前チェック

リスクマネジメントにおけるEMV(期待金額価値)の算出式はどれか。

- ア リスク事象発生時の影響金額 × リスク事象の発生確率
イ リスク事象発生時の影響金額 ÷ リスク事象の発生確率
ウ リスク事象発生時の影響金額 × リスク対応に掛かるコスト
エ リスク事象発生時の影響金額 ÷ リスク対応に掛かるコスト

問 10 ウ

解説

what-ifシナリオ分析：「～したらどうなるだろう」と各シナリオの仮定を変えて結果を評価する分析手法。

傾向分析：時間的な変化に注目し、その変化の原因となる事象を推測する分析手法。

差異分析：あらかじめ定めておいた基準、将来の予定、他企業の会計資料などと比較して差異を求め、これを批判検討しようとする分析手法。

モンテカルロ分析：確率論に基づく分析手法。影響を及ぼす要素を同時に変化させ、全体の誤差を集計する。

問 11 ウ

解説 440人時を10人で作業すると、一人当たり44時間働けばよいので、必要な工期は1.1週間となる。1.1週間にかかるコミュニケーション時間は、次のようになる。

- ・ 組合せは10人の総当たりであるため、45通りとなる。
- ・ 1週間当たりのコミュニケーション時間は4〔時間〕×45=180〔時間〕となる。10人の開発工数は週400時間であるが、このうち180時間がコミュニケーション時間となるため、開発にかけることのできる実工数時間は400〔時間〕-180〔時間〕=220〔時間〕となる。全開発工数が440時間であるから、440/220で2週間かかることになる。これに対して、1人で作業する場合の工期は1.1週間であるため、2/1.1≒1.8倍となる。

問 12 ア

解説 **EMV (Expected Monetary Value：期待金額価値)**：「リスク事象発生時の影響金額 × リスク事象の発生確率」で計算される。リスクマネジメントにおいて、リスクを金額で評価するために使用する。

問 13

正解

完璧



PMBOKのリスクマネジメントにおけるリスク対応戦略の適用に関する記述のうち、適切なものはどれか。

- ア 強化は、マイナスのリスクに対して使用される戦略である。
- イ 共有は、プラスのリスクとマイナスのリスクのどちらにも使用される戦略である。
- ウ 受容は、プラスのリスクとマイナスのリスクのどちらにも使用される戦略である。
- エ 転嫁は、プラスのリスクに対して使用される戦略である。

問 14

正解

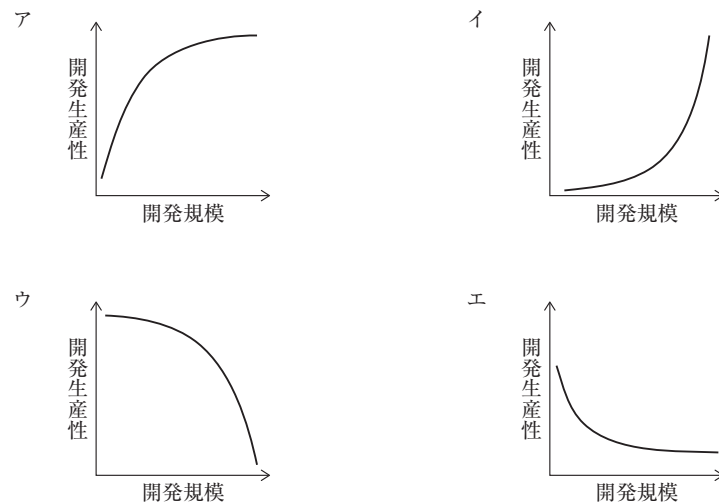
完璧



COCOMOにはシステム開発の工数を見積もる式の一つに、

$$MM = 3.0 \times (KDSI)^{1.12}$$

がある。開発規模(KDSI)と開発生産性(KDSI/MM)の関係を表したグラフはどれか。ここで、MMは開発工数(人月)、KDSIは開発規模(注釈を除いたソースコードの行数、単位はk行)である。



問 13

ウ

解説 PMBOKでは、リスクの対応戦略を次のように分類している。

1. マイナスのリスク(脅威)に対する戦略
 - 回避(脅威を取り除く)/転嫁(脅威を第三者に移転する)/軽減(発生確率または影響度を下げる)
2. プラスのリスク(好機)に対する戦略
 - 活用(好機が確実に到来するようにする)/共有(好機をとらえる能力のある第三者にオーナーシップを割り当てる)/強化(発生確率やプラスの影響を増加させる)
3. 好機・脅威両面戦略
 - 受容(リスクを受ける)

ア：強化は、事前に対策を打って、発生確率・影響度を高めるプラスのリスクに対して使用する戦略である。

イ：共有は、任せられる第三者をリスク(好機)のオーナーにする戦略である。プラスのリスクに対して使用する。

ウ：受容は、脅威がわかっているが何もしない戦略である。

エ：転嫁は、脅威を第三者に移転する戦略である。

問 14

エ

解説 問題文では開発工数の見積もり式が与えられているので、それにしたがって解答することになる。開発規模(KDSI)と開発生産性(KDSI/MM)の関係は、選択肢エのグラフの傾向を示す。開発生産性は、開発規模の拡大とともに急激に低下し、大規模開発になるにつれて勾配が緩やかになる。

実際の開発場面でも、ごく少数の開発者による規模の小さなシステム開発では一気にコーディングしてしまうことも可能だが、大規模になればなるほど大勢の開発者が担当するようになり、会議や調整など直接は開発生産性に結びつかない工数が増えるようになるので、正解のグラフがイメージできる。

問 15

正解

完璧

直前
チェック

プロジェクトの状況を把握するために使用するパレート図の用途として、適切なものはどれか。

- ア 工程の状態や品質の状況を時系列に表した図であり、工程が安定した状態にあるかどうかを判断するために用いる。
- イ 項目別に層別して出現度数の大きさの順に並べるとともに累積和を示した図であり、主要な原因を識別するために用いる。
- ウ 二つの特性を横軸と縦軸にとって測定値を打点した図であり、それらの相関を判断するために用いる。
- エ 矢印付き大枝の先端に特性を、中枝、小枝に要因を表した図であり、どれがどれに影響しているかを分析するために用いる。

問 16

正解

完璧

直前
チェック

ソフトウェアの潜在エラー数を推定する方法の一つにエラー埋込み法がある。100個のエラーを故意にプログラムに埋め込んだとき、そのエラーの存在を知らない検査グループが30個のエラーを発見した。そのうち20個は故意に埋め込んでおいたものであった。この時点で、このプログラムには埋込みエラーを除く残存エラー数は幾つと推定できるか。

- ア 40 イ 50 ウ 70 エ 150

問 17

正解

完璧

直前
チェック

XP (Extreme Programming) のプラクティスの一つに取り入れられているものはどれか。

- ア 構造化プログラミング イ コンポーネント指向プログラミング
- エ ビジュアルプログラミング エ ペアプログラミング

問 15

イ

解説 パレート図は、項目を出現度数の大きい順に並べるとともに累積和を図示することで、重点項目を明確にするものである。改善すべき重要な問題の優先度を明らかにしたいときなどに用いる。

ア：管理図に関する説明である。

ウ：散布図に関する説明である。

エ：特性要因図に関する説明である。

問 16

ア

解説 エラー埋込み法：ソフトウェアのテストを行うときに故意にソフトウェアにエラーを埋込み、そのことを知らない検査者がテストを行い発見したバグのうち埋込んだバグが幾つあるかで、プログラム中に残っているバグの数を推定する方法。

総エラー：埋込みエラーの比で表すと次のようになる。

$$30 : 20 = x : 100$$

$$x = 150$$

総エラーは150個、そのうち埋込みエラー 100個、真のエラー 10個であるから、埋込みエラーを除く残存エラー数は、 $150 - 100 = 50$ [個]である。

問 17

エ

解説 XP (Extreme Programming：エクストリームプログラミング) とは、シンプルなプラクティス (手法) を用いて開発を進める方法である。具体的なプラクティスは開発環境に合うように調整する。

プラクティスの一つとして、二人のプログラマがペアで同じマシンに向かって開発を進めることにより開発作業の効率化と品質の向上を図るペアプログラミングがある。

春

問 18 正解 完璧 直前チェック

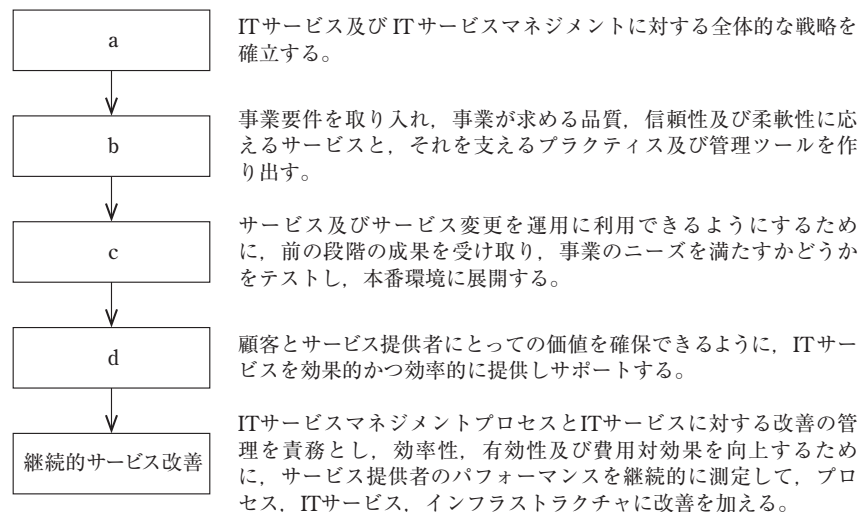
表はシステムの特性や制約に応じた開発方針と、開発方針に適した開発モデルの組である。a～cに該当する開発モデルの組合せはどれか。

開発方針	開発モデル
要求が明確なので、全機能を一齐に開発する。	a
最初にコア部分を開発し、順次機能を追加していく。	b
要求に不明確な部分があるので、開発を繰り返しながら徐々に要求内容を洗練していく。	c

	a	b	c
ア	ウォーターフォールモデル	進化的モデル	段階的モデル
イ	ウォーターフォールモデル	段階的モデル	進化的モデル
ウ	進化的モデル	ウォーターフォールモデル	段階的モデル
エ	段階的モデル	進化的モデル	ウォーターフォールモデル

問 19 正解 完璧 直前チェック

次の図は、ITILのサービスライフサイクルの各段階の説明と流れである。a～dの段階名の適切な組合せはどれか。



	a	b	c	d
ア	サービスストラテジ	サービスオペレーション	サービストランジション	サービスデザイン
イ	サービスストラテジ	サービスデザイン	サービストランジション	サービスオペレーション
ウ	サービスデザイン	サービスストラテジ	サービストランジション	サービスオペレーション
エ	サービスデザイン	サービストランジション	サービスストラテジ	サービスオペレーション

問 18 イ

解説

ウォーターフォールモデル：システム開発における各工程を順番に進めていく開発手法。

進化的モデル：部分的に定義された要求から開発を開始し、後続の開発で要求を適用することで真の要求に近づけていく開発手法。

段階的モデル：要求を取り入れながら順序付けられた部分的な機能に分けて開発する手法。

問 19 イ

解説

ITIL：英国政府が策定したITサービス運用フレームワークのベストプラクティス集。現在では、IT投資の効果を高め、内部統制の強化のために世界中の多くの組織・企業で採用されている。

サービスライフサイクル：ITIL-V3では、ITサービスの戦略策定から運用・廃棄に至るまで、ライフサイクルごとに順に「サービスストラテジ」、「サービスデザイン」、「サービストランジション」、「サービスオペレーション」、「継続的なサービス改善」の五つの段階で構成されている。

問 20 正解 完璧 直前チェック

システムの改善に向けて提出された4案について、評価項目を設定して採点した結果を、採点結果表に示す。効果及びリスクについては5段階評価とし、それぞれの評価項目の重要度に応じて、重み付け表に示すとおり重み付けを行った上で次の式で総合評価点を算出したとき、総合評価点が最も高い改善案はどれか。

〔総合評価点の算出式〕

総合評価点 = 効果の総評価点 - リスクの総評価点

採点結果表

評価項目		案			
		案1	案2	案3	案4
効果	セキュリティ強化	3	4	5	2
	システム運用品質向上	2	4	2	5
	作業コスト削減	5	4	2	4
リスク	スケジュールリスク	2	4	1	5
	技術リスク	4	1	5	1

重み付け表

評価項目		重み
効果	セキュリティ強化	4
	システム運用品質向上	2
	作業コスト削減	3
リスク	スケジュールリスク	8
	技術リスク	3

ア 案1 イ 案2 ウ 案3 エ 案4

問 21 正解 完璧 直前チェック

IP(知的財産)ライセンス契約の中で規定されるランニングロイヤリティの説明として、適切なものはどれか。

- ア 技術サポートを受ける際に課される技術料
- イ 技術の開示を受ける際に課される一時金
- ウ 特許発明の実施の実績に応じて額が決まる使用料
- エ 毎年メンテナンス費用として課される料金

問20 ウ

解説 問題文に指定された重み付けを利用して総合評価点を計算する。計算式は次のとおり。

各システムの改善案の採点結果×各評価項目の重み付け=各項目の評価点

$$\text{案1: } (3 \times 4 + 2 \times 2 + 5 \times 3) - (2 \times 8 + 4 \times 3) = 3$$

$$\text{案2: } (4 \times 4 + 4 \times 2 + 4 \times 3) - (4 \times 8 + 1 \times 3) = 1$$

$$\text{案3: } (5 \times 4 + 2 \times 2 + 2 \times 3) - (1 \times 8 + 5 \times 3) = 7$$

$$\text{案4: } (2 \times 4 + 5 \times 2 + 4 \times 3) - (5 \times 8 + 1 \times 3) = -13$$

総合評価点が最も高い改善案は、案3の7となる。

問21 ウ

解説 IP (Intellectual Property : 知的財産) : 知的財産には知的創作物、営業上の標識(商標・商号等の識別情報、意匠)、営業上・技術上のノウハウなど有用な情報がある。

ランニングロイヤリティ：一定期間ごとにライセンスに対するロイヤリティの支払いを受ける方式。ランニングロイヤリティには、売り上げや生産・販売量に応じて定められるランニングロイヤリティ(継続実施料)と、定額実施料(一時金)と、それらの併用とがある。

イニシャルロイヤリティ：契約の際に発生する頭金、契約金にあたるロイヤリティの方式。IPの利用に際し発明者に対する研究開発費、設備費、特許取得費などの補償を根拠にしている。

問 22 正解 完璧 直前チェック

ソフトウェア開発を下請事業者に委託する場合、下請代金支払遅延等防止法に照らして、禁止されている行為はどれか。

- ア 継続的な取引が行われているので、支払条件、支払期日等を記載した書面をあらかじめ交付し、個々の発注書面にはその事項の記載を省略する。
- イ 顧客の都合で、仕様変更の必要が生じたので、下請事業者と協議の上、発生する費用の増加分を下請代金に加算することで仕様変更に応じてもらう。
- ウ 顧客の求める仕様が確定していなかったため、発注の際に下請事業者から仕様が未記載の書面を交付し、仕様が確定した時点では、内容を書面ではなく口頭で伝えた。
- エ 振込手数料を下請事業者が負担する旨を発注前に書面で合意したので、親事業者が負担した実費の範囲内で振込手数料を差し引いて下請代金を支払う。

問 23 正解 完璧 直前チェック

コンティンジェンシープランにおける留意点はどれか。

- ア 企業の全てのシステムを対象とするのではなく、システムの復旧の重要性と緊急性を勘案して対象を決定する。
- イ 災害などへの対応のために、すぐに使用できるよう、バックアップデータはコンピュータ室内又はセンタ内に保存しておく。
- ウ バックアップの対象は、機密情報の中から機密度を勘案して選択する。
- エ 被害のシナリオを作成し、これに基づく“予防策策定手順”を策定する。

問 24 正解 完璧 直前チェック

メールサーバ (SMTPサーバ) の不正利用を防止するために行う設定はどれか。

- ア ゾーン転送のアクセス元を制御する。
- イ 第三者中継を禁止する。
- ウ ディレクトリに存在するファイル名の表示を禁止する。
- エ 特定のディレクトリ以外での CGIプログラムの実行を禁止する。

問22 ウ

解説

- ア：下請代金支払遅延等防止法 第3条の書面の記載事項等に関する規則の第4条に照らして問題ない行為である。
- イ：下請代金支払遅延等防止法 第4条の親事業者の遵守事項に照らして問題ない行為である。
- ウ：下請代金支払遅延等防止法 第3条の書面の交付等に照らして禁止されている行為である。書面に記載すべき事項のうち正当な理由があるものについては記載を要しないが、親事業者は当該事項の内容が定められた後、直ちに当該事項を記載した書面を下請事業者に交付しなければならない。
- エ：発注前に書面での合意があるので、親事業者が下請事業者に振込手数料の実費を差し引いて下請代金を払っても問題ない。

問23 ア

解説

- ア：コンティンジェンシープラン (緊急時対応計画、非常事態対応計画) では、企業内の全システムを考える必要はない。重要度 (緊急事態発生時予想損害額) 及び対応コストを考慮して対策を選択し、有効性の高い対策を検討する。
- イ：リスク分散の観点から、バックアップはコンピュータ室やセンタと別の場所に保管することが望ましい。
- ウ：重要情報 (消失したら困る情報) と機密情報 (漏れたら困る情報) は、必ずしも一致しない。
- エ：予防策策定手順、バックアップ対策手順の立案は、緊急事態発生前の平常時運用手順である。コンティンジェンシープランではない。

問24 イ

解説

- メールサーバでは、SPAMメールや迷惑メールの中継防止として、メールサーバの管理外の第三者からのメールの中継を禁止する必要がある。ただし、運用の都合で第三者中継を一律に禁止できない場合には、個別のアドレスやドメインからのメールのみを許可するように設定する。
- ア：DNSサーバの不正防止対策である。
- ウ：FTPサーバの不正防止対策である。
- エ：Webサーバの不正防止対策である。

問 25

正解

完璧

直前
チェック

SSLに関する記述のうち、適切なものはどれか。

- ア SSLで使用するWebサーバのデジタル証明書にはIPアドレスの組み込みが必須なので、WebサーバのIPアドレスを変更する場合は、デジタル証明書を再度取得する必要がある。
- イ SSLで使用する個人認証用のデジタル証明書は、ICカードなどに格納できるので、格納場所を特定のPCに限定する必要はない。
- ウ SSLはWebサーバを経由した特定の利用者間の通信のために開発されたプロトコルであり、Webサーバ提供者への事前の利用者登録が不可欠である。
- エ 日本国内では、SSLで使用する共通鍵の長さは、128ビット未満に制限されている。

問25

イ

解説 SSL：ネットワーク上の通信データを暗号化して送受信するため、また、認証するためのプロトコル。

- ア：デジタル証明書にはIPアドレスは組み込まれていない。「バージョン情報」「シリアル番号」「発行者」「有効期限」「署名方式」などの情報が含まれている。
- ウ：SSLは、インターネット上で安全に情報をやり取りするために開発されたプロトコルで、事前の利用者登録は必要ない。
- エ：日本国内では、SSLで使用する共通鍵の長さは128ビット以上も利用できる。

春